

平成 20 年 5 月 29 日

各 位

会 社 名 株式会社 土屋ホーム
代表者名 代表取締役社長 川本 謙
(コード番号 1840 東証第 2 部・札証)
問合せ先 経営管理室長 小田 徹
(TEL. 0 1 1 - 7 1 7 - 3 3 3 3)

平成 20 年 10 月期中間および通期の業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 20 年 10 月期（平成 19 年 11 月 1 日～平成 20 年 10 月 31 日）の業績予想について、平成 19 年 12 月 14 日付「平成 19 年 10 月期決算短信」にて公表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

■業績予想の修正

(1) 連結

①平成 20 年 10 月期中間連結業績予想数値の修正（平成 19 年 11 月 1 日～平成 20 年 4 月 30 日）

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	11,800	△1,100	△1,120	△1,260	△52 円 50 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	11,089	△1,667	△1,705	△1,852	△77 円 17 銭
増 減 額 (B-A)	△711	△567	△585	△592	-
増 減 率 (%)	△6.0	-	-	-	-
(ご参考) 前期実績(平成 19 年 10 月期中間)	12,210	△1,281	△1,305	△1,364	△56 円 83 銭

②平成 20 年 10 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 19 年 11 月 1 日～平成 20 年 10 月 31 日）

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	32,200	560	510	200	8 円 33 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	29,635	△515	△630	△940	△39 円 17 銭
増 減 額 (B-A)	△2,565	△1,075	△1,140	△1,140	-
増 減 率 (%)	△8.0	-	-	-	-
(ご参考) 前期実績(平成 19 年 10 月期)	31,673	△186	△222	△246	△10 円 25 銭

(2) 個別

①平成20年10月期中間業績予想数値の修正(平成19年11月1日～平成20年4月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	7,600	△550	△560	△730	△30円42銭
今回修正予想(B)	6,812	△1,032	△1,052	△1,263	△52円63銭
増減額(B-A)	△788	△482	△492	△533	-
増減率(%)	△10.4	-	-	-	-
(ご参考) 前期実績(平成19年10月中間)	7,600	△886	△892	△1,048	△43円70銭

②平成20年10月期通期業績予想数値の修正(平成19年11月1日～平成20年10月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	20,110	260	250	60	2円50銭
今回修正予想(B)	17,746	△687	△767	△978	△40円75銭
増減額(B-A)	△2,364	△947	△1,017	△1,038	-
増減率(%)	△11.8	-	-	-	-
(ご参考) 前期実績(平成19年10月期)	20,373	△366	△360	△304	△12円68銭

(3) 業績予想修正の理由

①中間期

当中間期における当社(連結)の業績は、事業年度始めの受注残高(手持ち工事)が52億83百万円(前年同期比29.6%減)という厳しい状態からのスタートとなりました。

当中間期の状況は、売上の伸長が難しい状況のなかで、原価低減と一層の経費の圧縮努力を行いました。スタート時のマイナスをカバーするには至りませんでした。

具体的には、売上高に関しては、「住宅事業」および「増改築事業」において、老舗・中堅企業の倒産からお客様の住宅取得マインドが全体的に低迷していることを主要因として、事業年度始めからの受注が予想を下回り、計画達成率は住宅事業が90%(8億23百万円減)、増改築事業が92%(98百万円減)となりました。

また、不動産流通等の「その他事業」につきましては、再活事業として他社販売の未入居マンションの一棟(36戸)買いを行う等、積極的に仕入・販売に注力した結果、118%(2億10百万円増)の計画達成率となりました。

売上総利益に関しましては、予想以上の資材高騰等の影響を受け、計画した売上総利益率を2ポイント下回り、売上減も影響したことから、額としては計画より4億81百万円の減益となりました。

経費面に関しましては、一般費が若干増加傾向にあり、計画より1ポイント強(84百万円)増加いたしました。

以上のことから、当中間連結会計期間の売上高は、当初予想より7億11百万円減の110億89百万円(前年同期比9.2%減)、営業損失は当初予想より5億67百万円拡大し、16億67百万円、経常損失、当期純損失も同様にそれぞれ17億5百万円、18億52百万円となる見込みとなりました。

②通期

当中間期の業績予想修正を鑑み、下半期の受注残ならびに今後の営業状況を推察した結果、増改築・リフォームのホームトピアおよび東北エリアを管轄する土屋ホーム東北が足元を固める状況となる見込みである反面、親会社である土屋ホーム、ジャスダック上場の土屋ツーバイホームが公表した業績予想を下回る見込みとなり、この度、通期の業績予想も修正することといたしました。

(季節変動について)

当社グループは、北海道地区での売上が全体の70~80%を占めており、冬期間の販売および施工が落ち込む傾向にあり、売上高が上半期(11月~翌年4月)に比べ下半期(5月~10月)に集中するという著しい季節変動があります。

(業績予想について)

業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報による判断に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上